

# チューリップとフェアと公園の歴史

年	できごと
大正7年	庄下村の水野豊造がチューリップの球根を購入して栽培を始める
大正10年	チューリップ栽培の仲間かふえ、組合を作ってよりよい球根づくりにはげむ
昭和11年	富山県は農事試験場を出町太郎丸鍋島地内に設置する(5ヘクタール)チューリップの研究も始める
戦時中	畑に隠すようにして球根栽培をなんとか続ける
昭和22年	試験場でチューリップの研究を再開する
昭和23年	水野豊造らがつくる「富山県花き球根農業協同組合」の日夜を問わず努力のおかげでチューリップ球根が、戦後の日本の農産物輸出の第1号となる
昭和24年	富山県農業試験場出町園芸分場となる(以下「園芸試験場」と略す)この頃から試験場のチューリップの花を見に、人々が集まり始める
昭和26年	GHQの指導で、園芸試験場が廃止になる案が浮かび上がる 園芸試験場を一般開放してチューリップフェアが開催される(198品種)
昭和27年	園芸試験場が全国でただ一つのチューリップ育種機関となる 出町ほか5村が合併し砺波町ができる 第1回チューリップフェアが開催される(4/29~5/3)
昭和28年	実は、第1回の前の年にフェアを行っているのです。
昭和29年	第1回フェアの歓迎アーチ
昭和30年	砺波市が誕生する チューリップが富山県の花に選ばれる 切花を使ったデコレーションが初めて登場する 小中学生の写生会を始める
昭和31年	このころ砺波市商工会議所もスタッフとして活躍
昭和32年	「NHKのぞ自慢」の公開録音が行われる
昭和33年	砺波駅から会場まで無料バスを運行し始める
昭和34年	フェア10周年を迎えてチューリップ踊り街流し、太鼓競演、公開録音サーカス、撮影会、写生会などで盛り上がり、貸切バスで大勢が押しかけた このころ出町中学生が毎年奉仕作業にきてくれた
昭和35年	フェアの行事も市民に定着し大規模になってきたので、この会場を公園にしていこうという考えが始めました。
昭和36年	試験場の果樹部門が魚津市に移転したのでそのエリアを市が譲り受ける チューリップフェア推進協議会を結成する
昭和38年	フェア向け栽培ほ場や児童広場など「花の公園」が完成する
昭和39年	この年より会場の名称が「砺波チューリップ公園」となる
昭和40年	セーナ機が墜落する
昭和41年	機関車「中越弁慶号」保存館が完成し公開される
昭和42年	入場者20万人を超える
昭和43年	チューリップフェア推進協議会を結成する
昭和44年	この年から協力費といふことで入場料子ども10円大人20円をいただく
昭和45年	市内の婦人会によるチューリップ踊り街流しが始まり毎年行われるようになる
昭和46年	公園内に児童交通公園ができ、ここを活用して交通安全教育が始まる
昭和47年	チューリップタワーが完成する(フェア20回を数えた記念の事業)入場者30万人を超える



昭和11年開設当時の試験場

チューリップは秋から春にかけて栽培するので、米作りもできる。水田の裏作になりそうで、これはよい産物になりそうだ。

大いに輸出して日本経済復興に役立てよう。そのためには組合一丸となって信用あるよい球根を作ろう。

試験場が廃止されると困る。フェアで存在をアピールしようとした。招待したGHQや県庁の人もチューリップの花のみごとさに感激して、試験場廃止の話はたち切れになってしまった。よかったよかった。

町村合併の祝賀気分の中、手作りアーチで歓迎し、花自動車を繰り出してともにぎやかだった。



第1回フェアの歓迎アーチ



第1回の花自動車「百万ドルの大作進」



オランダ風車に30アール分の花首が使われた



このころは汽車で来る人が多く、砺波駅から会場までは人の行列だった。年々来場者が増え、これにこたえようと主催者側も熱が入った。



昭和36年出町中学美術部の写生の様子



昭和34年新作のチューリップ踊りを披露する

試験場が少し空いたのなら市民のための「花の公園」にしよう。

フェアの規模も大きくなってきたので、入場料をいっただけに充実させよう。



60回	59回	58回	57回	56回	55回	54回	53回	52回	51回	50回	49回	48回	47回	46回	45回	44回	43回	42回	41回	40回	39回	38回	37回	36回	35回	34回	33回	32回	31回	30回	29回	28回	27回	26回	25回	24回	23回	22回
平成23	平成22	平成21	平成20	平成19	平成18	平成17	平成16	平成15	平成14	平成13	平成12	平成11	平成10	平成9	平成8	平成7	平成6	平成5	平成4	平成3	平成2	平成1	昭和63	昭和62	昭和61	昭和60	昭和59	昭和58	昭和57	昭和56	昭和55	昭和54	昭和53	昭和52	昭和51	昭和50	昭和49	昭和48

北陸自動車道砺波～小杉間が開通する  
チューリップ祭りほ場を敷地外に新設する  
ミスチューリップコンテストが始まる  
駐車を増設し駐車料金をもろう  
チューリップ公園総合計画をつくる  
砺波地方の代表的な民家「旧中嶋家」を公園内に移築する



市内で最も古い建物で江戸時代の民家旧中嶋家

市街地にあった旧中越銀行の建物を公園内に移築する  
ひょうたん形の池・円形花壇・台形花壇が完成する



旧中越銀行(現郷土資料館)

砺波園芸分場が五郎丸に移転し、すべてチューリップ公園となる  
砺波市文化会館が開館する  
砺波郷土資料館が開館し砺波散村地域研究所が開所する  
フラワー都市交流協議会が発足する(長井市・下田市・和泊市・砺波市) 県内最古の消防自動車チャンドラ号を公園内に展示する  
フラワー都市宣言を行う



砺波市文化会館

この年から開花時期に合わせて会期を決める方式にあらためる(この年は4/24～5/6)  
10年に及ぶチューリップ公園整備の完成式を行う  
しょうぶ祭り・カンナ祭りが始まる  
富山県花総合センター(エレガガーデン)が開館する  
トルコ・ヤロバ市と姉妹都市提携をする 駐車を大はばに増やす  
フェア40周年を祝う  
五連揚水車とヤロバの泉ができる  
オランダ・リッセ市と姉妹都市提携をする  
この年入場者数約49万人を記録する(60回の中で最高)



水車苑



道の駅

公園の規模を広げて四季折々いつでも市民が楽しめるような文化ゾーンをめざします。

チューリップが取り持つ縁で国際交流も進むようになった。花の都市らしくなってきたね。

道の駅「フラワーランドとなみ」が完成する  
フェアの運営に「フラワーランドとなみ」が加わる  
都市公園リフレッシュ推進事業により公園再整備が始まる(～平成9)  
砺波市のシンボルキャラクター「チューリップ君」が登場する  
会場が10ヘクタールの広さになり入場者数も45万人となる  
第13回全国都市緑化とやまフェアのサテライト会場となる  
四季彩館が開館する



チューリくん



四季いつでもチューリップの花がみられる四季彩館完成



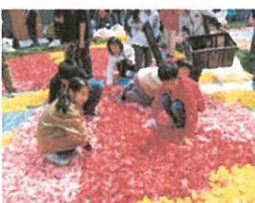
市民念願の美術館が完成

公園内の施設も整備されたのでフェアの運営にも民間の力を入れて、ソフト面を充実させていきたいね。

市美術館が開館して文化ゾーンとしてさらに充実する  
チューリップの妹「リップちゃん」が登場する  
タピ・ドウ・フルーの行事が行われ始める  
車のアイディアでデザインを作り、親子で描くイベントのタピ・ドウ・フルー  
車いすでもチューリップタワーに行けるようメルヘンスロープを新設する  
フェアの運営主体を(財)砺波市花と緑の財団に移す  
50周年を記念してオランダより風車を移設する  
よりよい公園作りの話し合いが始まる  
公園の修景改善計画がまとまる  
庄川町と合併して新砺波市となる



リップちゃん



子どものアイディアでデザインを作り、親子で描くイベントのタピ・ドウ・フルー

四季折々いつ来ても満足してもらえるように花や樹木や園路を見直そう。車いすの人にも過ごしやすいように。



五連揚水車を作り直す  
タワーの花をつくり直す  
美術館北側に遊具ゾーンができる  
公園各所に使いやすい洋式トイレを増設する  
フェア第60回を迎える  
「道の駅」がリニューアルされJAの野菜直売所とレストランができる  
フェア会場では500品種100万本が咲きそろう